

報告事項イ

鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会との連携協定締結式及び意見交換会の概要について

鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会との連携協定締結式及び意見交換会の概要について、別紙のとおり報告します。

令和元年8月8日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

鳥取看護大学・鳥取短期大学と鳥取県教育委員会との連携協定締結式及び意見交換会の概要について

令和元年8月8日
教育総務課

- 1 日時 令和元年7月23日(火)15時30分～17時15分
- 2 場所 鳥取看護大学 K-409会議室
- 3 出席者 鳥取看護大学、鳥取短期大学：理事長、学長、事務局長など計11人
県教育委員会：教育長、理事監、次長、教育次長、参事監、関係課長など計11人

4 内容

(1) 連携協定締結式

連携協力に関する協定書に署名した後に、教育長及び両学長が挨拶を行った。

ア 山本教育長

これまでの校長会との意見交換会開催などの取組に加えて、高大接続、若者の地元定着、倉吉での美術館建設など、この協定の締結をきっかけにお互いの取り組みをしっかりと連携しながら行っていくことで教育界に様々なよい効果をもたらすことができるのではないかと大いに期待している。

イ 近田鳥取看護大学学長

看護大は27年度に設立され5年目に入り、内容を高めていかないといけない時期に協定を締結でき、これから高大接続も含めて連携できることをできることから取り組んでいきたい。

ウ 松本鳥取短期大学学長

地域を担っていけるような人材を育成しなければいけないという覚悟を持っているので、この協定を機に高大接続をしっかり進めていくことはもちろん、できれば中学校、小学校とも連携して地域の若者たちにより充実した教育を展開していきたい。



(2) 意見交換会 (○は鳥取看護大学、鳥取短期大学からの意見、●は県教委からの意見)

ア まちの保健室での連携について (鳥取看護大学提案)

鳥取看護大学が今年度実施を予定している「まちの保健室」のうち、参加可能な日程・人数等について提示し、高校生が大学教職員・学生・地域住民とともにボランティアスタッフとして参加する形の連携を提案する。

- まちの保健室に高校生をスタッフとして参加させることにより、自主性や責任感を養いながら、コミュニケーション力を身に付けるとともに、地域を知り、社会の中でなにか役に立つというキャリア形成にもつながる。
- 高校生と大学生や地域住民によるまめんなかえ師範塾の方などとの縦のつながりもでき、自分の将来を具体的にイメージしやすい。
- 拠点型のまちの保健室はもちろん、出前型まちの保健室が高校の中で模擬授業として実施できるのではないかな。
- まちの保健室は地域と関係が深く、地域と色々な方がどういう困り感をもっているのか具体的に高校生の段階から学ぶことができ、ふるさとキャリア教育にもつながって自分の生き方を見つけ出すヒントになる。ぜひとも高校生に勧めたい。

- 看護師を志望する生徒にとっては看護に携わっている専門の方からアドバイスをいただくことで、目的意識がはっきりし、将来の選択肢が広がる。
- 看護師志望だけではなく、地域の課題を探るという意味でも各高校が必ず実施する探究活動の中で取り組んでもいいのではないか。
- 健康は永遠のテーマであり、看護の考え方を病院だけではなく普通の生活の場に広げて考え、病を持ちながらも元気で地域で暮らしていくという地域医療についても実感してもらえるのではないか。
- まちの保健室の狙いや目指すところを高校生にしっかり理解させ、高校生に習得してほしい学びや知見がうまく伝わる形が望ましい。そういう取り組みをしている学校をピックアップして狙いを定めてもよいのではないか。

イ 県立博物館（県立美術館）との連携について（鳥取県教育委員会提案）

県立博物館が実施している子どもたちを対象とした美術のワークショップや出前授業等に学生に参画していただき、開館前から美術館が提供する事業に関わっていただきたい。

- 美術館のある地域の大学として盛り上げたいと考えており、ワークショップへの参加や対話型鑑賞についてはすぐにでも協力できる。中長期的な提案である授業への位置付けや学生による対話型鑑賞も今後検討し、住居・デザイン専攻だけではなく他の学部も含めて大学としても様々な形で関わっていかねばならないと考えている。
- 広く中部の活性化という意味で、情報・経営専攻の中でプロジェクト演習として学生がフィールドワーク等を通じて学習し、提言をするという取り組みを行っている。その提案の成功例を高校生に来てきていただいて話を聞いていただくなど、高大の接続ができればと考えている。
- これまで美術館整備については出前説明会をしていろいろな意見を聞きながら検討してきたが、みらいを創る美術館をコンセプトにしているので学生が鳥取県の活性化を含めて議論をし、こんなことができたなら面白いということを提案してもらいたい。
- 県立美術館であることから鳥取県全体でみんなの美術館だと思ってもらうための仕掛けづくりが必要。鳥取プラットフォーム5+αの事業に上手に取り入れ、県内の5つの大学の学生が絡むような仕掛けができないか。県教委にプラットフォーム5+αの会議に出席していただき、離れた地域の学生が関わるにはどんな仕掛けがあるのか提案してほしい。
- 地域ネットワークの補助金を創設したり、県内の美術館と連携するような仕組みを取り入れたりして、県民が自発的に関わっていただける仕組みを作っていきたい。

ウ その他の出前授業について（鳥取看護大学・鳥取短期大学提案）

従前より両大学がHP上に提示している出前授業のプログラムを積極的に活用していただくとともに、ニーズに応じた内容を充実させていきたい。例えば、鳥取看護大学からは災害時に地域の一員として行動ができる力を育成するための自治会長ゲーム、鳥取短期大学からは小学校に出張して行うイングリッシュカフェを新たに提案するので、活用していただきたい。

- 小学校は来年度から英語が教科化されるので、本物の英語に触れる機会を提供していただけることはありがたい。小学生にとって学生と交流する機会がもてることは小学生なりに行き方を見つけていくことにもつながる。
- 日本人で英語が話せる方を小学校外国語活動支援員として配置しているので、学生の中で英語が堪能な方に協力をいただければありがたい。また、小学校教員の英語研修についても協力をいただければと考えている。
- 自治会長ゲームを通して助け合いの大切さとかコミュニケーション能力を高めたり主体的に行動したりする力を身につけるために有効であるため、学校に紹介するなどして取り入れていきたい。
- 出前授業は体験的な要素を入れていただくと子どもたちの心にも響き、より効果があるのではないか。